洛星新聞編集局 京都市北区小松原南町 TEI砂2334

業式が厳かに挙行された。 担いてこの洛星に別かれを告げた 三十一年四月、本校に入学以来、 無数の関門を通過数々の思い出を 今回卒業の第五期生一三五名は

50二週間ほどはやめの第五回卒 一月十五日、例年のごとく他校 親 爺 教

むなら十二、十三を望みなさい。 が高校生活に悔だけは残しなさん 陳腐な言葉ではある

鈴木 育 武夫

ツをしなさい。恋を語りなさい。 そうしたら すばらしい 自己満足 な。眠むりなさんな。自分だけの 心が一杯に満たされるでしょう。 い。むやみに涙がこぼれてくるも てんな時 星空を見て ごらんなさ 余りいい言葉でないけれど)で テレビなんか 見なざん

るんだ。。立派な親爺。そんな自 さい。幸福な家庭――これこそ世 貸を心の片隅にでも持っていて下 親爺になるんだ。立派な親爺にな もつ一度いいます。あんた方は

ませんように。 近視眼的な物の見方だけはなさい 万の宗教への強い関心には頭の下 最後に中学生の方方へ。あなた

く。少々失敗してもまだ君達はテ

た時とう思った。よく叱られた中

もう卒業か、僕は原稿を頼まれ

イーンエージャーである。との様

うような 事ははかない 夢ではな

むしろ大きな理想を持とう。洛星

生徒自身のプランというよりは

で心の底に留めておいて下さい。

未来に向って」 久保 吉生

い。それが非現実的であっても構

わない。ガムシャラに実行してい

事に反抗したがる為である。 は勇気のある者もいて、つまらぬ

第五回卒業生は、よく勉強し、

後輩諸君、ならびに諸先生!

く遊んだ生徒であった、といつま

お世話して下さいましてありがと一るので悲しくもなければつれしく の小さき親爺万に絶対的な信頼を 後輩諸君、先生、本当に長い間

浴

およせなさい。親総方にまかせな一方、級友達、後輩諸君、文化祭、 の中にいい聞かせておきなさい。 さい。親爺達が失敗してもくじけ 青 校の処置も、只懐しいものにしか

てしまって、良い所のみが、思い 何から何までも、悪い所を忘れ

素晴しい感じです。こんな気持に れ以外の何ものでもないのです。 ども、僕の心に起っているのはと った卒業の言葉であるとも。けれ れません。又、いかにも型にはま ものに包まれているのです。全く 出というふわふわした雲のような|は非常に尊いと思う。諸君も、卒 諸君はこれを読んで感じるかも知 君達も必ずなるでしょう。 きれいととばかりならべて、と るだけの事を!) 業されるときには、必ず「何か」 分かけなかったが、この「何か」 "als ich kann!" (私にでき 高三の今年も是非一位をと、運動 の言葉を書いてお別れしたい。 いる「ジャン・クリストフ」の中 い。最後に今の私の信念となって

理想に向って 熊谷 純三

私達はいつも或る理想を持ち、

ちや、張切 ので、今年

てスタートしたもの

一位をものにしなく

た為にちがいない。クラブ活動を一くようにというのが、卒業に当っ

見るとただ複然とすどしてしまっ一そして只洛星が本当に前進してい

熱心にやるでもなく、勉学に精を心の僕の単純な願いなのです。

といってもやはり青春は楽しみな の初めに本部先生が、幾ら高三だ まのなく、もう六年も過ぎてしま に控えて同じことを中学生高校生 さいと言われた。僕は卒業を間近 ったのかと思う気持が強い。高三 に言いたい。よのかえってみる 洛星よさらば。という気持はあ

生

卒

吉田

ですよ。家庭が不和という事でひ一動を一生懸命し且つ勉強を真剣に ない親輪は子供に軽蔑されるもの 高校時代に恋愛の一つもやって一出すでもなかった。高二と高三の 時は一番充実していた。クラブ活

しまうんです。そんな時若い頃の 来に息子のぬけがらに落ちぶれて の様な親爺……いいなー。僕のあして送って行とうという高一の終 経験がいるんです。子供達と友人 諸君達は、近き将来か、遠き将

生活にひたりきりなざい。本を読一ら見る京都のような、のんびりし んです。そして人生が解った様な みなさい。勉強しなさい。スポー た人間にも なりたいと 思ってい

分に払わなくてすんだから。) 獄であった。 度もラクダイしなぐてすんだ。 を手にする為に、何回試験を受け (これは親孝行。月謝を、一年余 出すことがある。第一、卒業証書 卒業するにあたって、三つ思い 全く試験の一週間は地 その甲斐あってか一

時代に於てわずか一学期の間で先 は僕達だけで終りとなってほしい た事を覚えている。この様な経験 生が変った事もあって僕はその度 ものである。 く変った事だった。特に僕の高校 出となってしまう様に思われる。 た中三時代そして試験に追いまわ された高校時代その他クリスマス 一時代、学校生活が一番頭白かっ って一番つらかったのは先生がよ や運動会等、全てが遠い昔の思い さていよいよ新校舎が完成し、 それらの思い出のうちで僕にと

進学について」 暁彦

ていると思

つ。しかし最近は人々

れに近付こうと努力し一の、哀れにも落伍。

も確実なプランをたて、得やすい

ナーで、いつも馬鹿でかい声で唸

第三、グリークラブのトップテ

だ。これからは、一時一時を充実 りの時の 決心を一生持ち 続けた い映画には友迷に連れてい こうわりきっても、やはり何か

待して筆をおきます。 しかし文、それとは別に洛星か

63

|くり返し適当に日を過している人|とだ。(僕のごとき生徒は、99

現在洛星は穏やかな、平和な学り 1 per-cent に注告する。)

高三になって『もっと勉強しと

per-cent いないであろうが、残

はいないと思う。

| て先の見えぬ人もいる。諸君はど | 出せない。 (高三になって少し勉

うか?。 雨の日も風の 日も登校 強したせいかな?)

し、又明日も登校と毎日同じ事を

後輩諸君!学生は勉強すると

|非常に綿密に現実的プランであっ||山ほどあるにちがいないが、思い

或いは全然気付かぬ人もいる。又

にはプランをたてようともせず、

先生に、紙面をもって詫びる。)

外に思い出はないか? そのゃ

理想を持つ傾向があるようだ。中っていたこと。(指揮者、苫名康

河村、武和

くよ。」とその時は何の気なしに う感情も 起らなかった 僕に急に 答えたのですが、さて書く段にな あります。」といわれても何とい って驚きました。「卒業式はいつ てきたからです。 何か善いて下さい。」「うん、書 。卒業というものが身近かに思え。気持。」だ。私のプライドはこと 「あの、今度"卒業に際して、

も、僕達のカンにさわるような学」む。(将来改革してやるつもり。)」なんて見たこともなかったから、 ているのです。その雰囲気、先生一の環境がつぶれぬよつできぬもの もない。。らくせい。という言葉一としても、よほど多くの本を読ま 新しい世界への第一段階だ、とはお言なえた。「倫理」の授業がな すぎなくなってしまっているので「は考えぬ。が、洛星のような秩序 ねばならなかった。高皿でこれら 生を考える事はなかった。考えた か。友人は入試で頭がいっぱい。 性的友人がいなかったら、神と人 かったら、ミサがなかったら、知 知性的環境――読書の少なさを な気持で新しい洛星の第二の誕生 を迎えてはどうだろうか。

紙数の関係上いいたいことも充

ラソンも二年続けて一位であった。最高の喜びを感じるに違いない。 クヤシカッタコト。)冬の耐寒マしているのを見出すならば、僕は 会の前十日間、夜、練習に励んだ一違いない。それを後になってふと が運動会はなかった。(この時の | 思い出す時僕達の母校がより発展 と僕の一生の思い出として残るに しかし六年間の学校生活はきっ

ある。これはたいべん残念なこと | らも学問するつもり。 在校生諸君 代は、空目になったような感じで「ら「進学」という。つまりこれか と変るわけではない。ただ「洛 星」という学園を離れるだけ。 卒業という程勉強していないか

る。では、洛星の益々の発展を期が、それだけ?それなら、何も、 せてくれるだけは、勉強した。だ かただ。洛星へは、確かに勉強し 校をでる時の気持と一緒のハズ。 か」が残るわけはないハズ。予備 特に、「洛星」を離れるのに、「何 にきた。「洛星」が高校を終えさ 残る。感傷?いいえ。わりきり

これが卒業 と。」は文君の言。エリートじゃ | スに平気で甘んじている。又中に 「変なエリート意識を持つな|それは退化

頭も数学の方程式で一杯になって一友を作るべし。洛星の生徒は皆い

した先方が決めたコー

いヤツだ。

らプランをたてる、そのうちには 先に確実な結果を予想し、それか

葉を絶対に言わぬように。 けばよかったのになあいこんな言

後輩諸君!なに事でも話せる

です。これは如才のない生徒等が 園そのものである。けっこうな事

卒業するというのはどういうと ない。プライドがある。だからこ といい、君は「実験室のよざに対」とノートルダムとを合併するとい 3 そ、今「何か」を感じてるんだ。 する気持。」という。はっきりい 会館が出来たからおこる気持。」 「何か」とは何か。彼は「洛星 「知性的環境と秩序に対する 「何か」はことからであ

のもつ響きは心安らぐものをもっ 全く密着しているように感じてい これら全てが嫌な感じだった先生 とだろう。学校をやめるととだ。 理が発える機とが

「三つ巴の思い出」

西山

人生論もぶてぬ。入試制度をうら一たことか。その度に、普段教科書一に何か勉強に対する意欲をそがれ はない。それがかなしい。 大学に秩序なし!、と一猛勉強?

を感じるようになっておいて欲し。年続けて一位。これはマラソンの一だ。僕達は常に前進せねばならな 位、三位、

成績。(勉学に於てこのような成しい。こう思う時僕の胸は新しい希 り目をまわしてしまうであろう。 績であったなら、母は喜びのあま 第二、運動会。中学の時は、五一ているのだ。いつまでも古い思い 位。高校に入って二一出に ひたっていては いけないの 望で一杯になる。 が僕達の前には新しい人生が待っ 学校も一層発展する事だろう。だ

完

成 L 1: 洛 星 会 館 0 全 景

> しすぎるのはよくないのでゆる とは事実であろう。規則のきび ともに相当騒しくなっていると そう厳しい訳ではない。それと

きにくい。中途半端に規律があ

かってなことを言い、友達もで がしらけてしまう。自分自分が

ションスクールである。宗教が ある。宗教を除いてこの学校を

> ないか。耳を持つ者だけが聞い うである。それに答えようでは

> > る費用は、ファ

ザー・アラー

と他に、第一にこの学校はミッ 努力と苦労が必要である。もっ れにはどこに居ても同じだけ は大学へ這入ることか。いやそ 来ないかもしれない。さてそれ ひょっとするとこれからはもう ってくる必要もないであろう。

るようである。たしかに昔は戦 の厳格な学校として見られてい

しかったであろう。しかし今は

が、高校になるともうクラス内 ある。中学の間はわからない らだら惰性で動いているだけで ともできるはずである。 のであるから、それをとめるこ 来るのではなくして呼びよせる 来とないとは言えない。が、

世間からは、まだ洛星は規

も言える。遊びながら、勉強し

にファイトが少ないと言うこと

ながらという「ながら族」がだ

とである。

んだんに ゆるくして 行くと言

学校は最初はきびしくしてだ

う。それと反比例してはひきょ

う、脱線さそうとし、それにな

立と変らなくなってしまうかも

しれない。この学校に月謝を払

ろう。何かなければそれこそ公 のためにこの学校があるのであ

か。授業中すきあらば雑談しょ

とやかさもほとんどない。生徒

なければなるまい。

多金属医医医医尿管

盟烈な台風にも破壊されず無事完 間でおくれにおくれたが、九月の | ら?) トに六月初め頃から着工された洛

基会館もついに完成した。六月の|らの校舎でさえ美しいのであるか 総工費三千万円、父兄の協力の|洛星会館がいかに美しくすばらし いものかを想像出浴よう。(こち

校舎に来るとゲッソリするなッ」 | だと思わず感じる者も少なくない 外に比べて色彩が多く非常に美し一うとする時これがちらっと我々の 々とした姿をすえている。内部はのマークがはいっていて食べ終ろ ? を思い出させるような(みな) 成した事を、我々は心から祝福し一がそれらの内で我々がもっとも望 の美しさを見せて、冬空の下に堂 た後に言った言葉だが「こちらの」 い。ある生従がこの会館を見学し い、この度完成した会館は、非常 に近代的な建物でちょっと京都館 みんなもよく見て知っている様(食堂であろう。食車は全部で三十 んはどうお思いですか)未完成 通の食堂ではなく我々生徒の食堂 いる。又うどん鉢の底には、洛星 して、お茶や湯のみまで置かれて れることになる。特別サービスと 三あり、その各々に椅子が五・六 目にうつる。この時との食堂は普 脚ついている。約二百名の者が坐 んでいたものは、なんといっても 多くの部屋が出来たわけである

と。見たことの無い者でもこれで「だろう。今学期はうどん類だけで「々と用意される予定である。
校舎に来るとゲッソリするなァ」「だと思わず感じる者も少なくない」あるが来学期からはごはん類も色

前)きっと誰も台所をのぞかれた 一 所が必要である。 (これは当り みんなの食物を用意する為には

れそうな大きなマナ板がある。そ ならべた様な大きな冷蔵庫、じや 部屋いっぱいに色々な機械がなら 機械又台所の中央には人が横にな がいもや人じんその他の皮をむく べられている。まずふすまを二枚 人はあるまい。内は非常に広く、 他に、食器の菌を激す為の装 水と湯と両方使える様に大き



明 か 3

るわけである。 んな安心して食べられ から非常に衛生的でみ なポイラーもある。だ

全部で百八十脚あり 与えてくれる。椅子は る様な雰囲気を我々に ることであろう。そこ 席が階段式になってい 入いって気がつく事は 聴覚教室である。まず 学年が楽々と坐れる。 次に広く大きいのは視 おまけに非常によく響 にすわれば映画館に くならば、音楽の嫌い 、からここで音楽を聴 食堂にひきつづいて

非常に明るい。床はセメントであ も四つついていて、水もその場で、の、図画室は南北両側に窓があり ない様に凹型になっている。 水道、視聴覚室の 東側は 図画室であ る。 黒板はどこから見ても反射しれるだろう。 な者でもすぐ好きにな

わけだがクラブ室や無談室の部屋

なお、二月五

日から待望のカレ

体育ボックス、宗教研

究室

和密又明るく広いクラブ室等ある一らない。

この他に尿の間やいろりのある。ならないといる

いのが少し残念に思える。



るからか。そうだからかもし り、運動場が一度にして明るくなた者に変な印象に与えるに違いな る為盗

認れない様

にと

感も

壁もわ

成した体育ボックスの

利用価値を もわれない様に久学校と離れてい であるが大いにスポーツを行い完 つた様に思える。ボールが当ってい。細かい事は前号に載せた通り 部は御覧の通り クリーム 色であ がんじょうな部屋は、悪事をなし ボツクスも間もなく完成する。外 内部は割合に明るく、いくらかの

高めようではな

いか。

又この度修道院の空地に木造平

く。口からしかエネルギーが発 ますます消極的にだけなって行 半消極的だからということにつ 散し得ないのかと思われる。そ て行く。いや近ずきもせずに、 きるのではないか。このままで ないが、それにしても生徒が大 は普通の公立学校のようになっ ないことであるから全然ちがっ 職することさえできる。他に 考えた後のことであり、人生と ない。もちろん宗教は我々の内 とである。自覚しなければなら 考えると言うことは不可能なこ いう提示された難解な問題を意 んじないと言っても神について に浸透している。いくら神を信

の時は少しオーバーぎみのよう う記事が載ったことがある。そ

> 前のように厳しい罰のもとでの められてきたのである。だが以

洛

としたら 恐しいこと ではない の状態に疑問を覚えなくなった な所か、と言うことになってそ 輩たちが、なんだ洛星とはこん 吸収してゆくのはむつかしいと か。先輩の良い所だけ十二分に れは最低限度のことでもある。 ているとも言えるが、しかしこ これから先、入学して来る後 究や、いろいろ 十坪で、三十畳 は、宗教関係の本 用される。そして 宗教行事の為に 入れられ、宗教研 じ様に黒板などが きる。又教室と の部屋が二部屋 の建物の敷地は この宗教研究室に 便 な

るとは断言できない。しかし将

あろう。今はまだ危機が来てい

ら。ただ他に何かが欠けて来つ の状態と同じことであろうか 実際には皆の自覚がなければ今

んなことではいけない。

洛星へ来る必要性、即ち、何

つあることは事実ではなかろう

の人は洛星へ来るのは無意味で もしないと言うのであれば、 言えないのではないだろうか。 も、そのような不安がないとは に見られたふしがあるが、誰し

あたりまえ。表面上ちがっても き合いに出すことのできぬのは としても今の職しさに対して引 静粛・礼儀は、いくらよかった



広々とした図画室

階段狀の視聴覺教室 である。 く入いって

外側は非常

うである。量の少ないのが第一の

原因といえよう。

ーライスの評判は余り良くなさそ

が、内に長 にきれいだ かろうか。

実用的でな

いのではな一十五円。それにもかかわらずカレ

思っていたよりも割合に安く、四

ーライスが用意された。みなが

る。しかし これを飾っ ておくので の様に立派 つことにな な会館をも 変になる様 ったのであ いると目が 我々はこ

二階の和室

体育ボックス



ことを忘れてはな に利用しなければ

洛星会館にひきつづいて、体育 ざわざブロックで造られている。

間もなく完成



に取りかかられたものである。こ一となっている。

甌されていて、去年十一月に工事 はいずれ御聖堂が建てられること 研究室は去年の三月の初めから計 日の予定である。この建物の横に の建物が宗教研究室である。宗教 ものである。なお完成は今月の三 屋建の建物が造られているが、と

English too

英語を担当されることになってい とであるが、来学期からは中一の

われる。そしてこう皮肉られてし

神父さん

とり惜しいものである。 務めてこられたのでその帰国はな

なお宗教研究クラブ主催により

シカゴの』 De Paul

大学で

カナダへ帰国された。帰国に先だ って二月一日放課後視聴覚室で日

れたところ原因がは

午前七時三

補導部室でのマリー神父一で神学及び社会科学を研究され、

America (ワシントンD.C.) Catholic University of アメリカ文学を専攻し、その後

と、とまじめに ックスを読むこ 社会科学のトピ ばらく考えて、

大変喜こんでおられた。それにし

て記念品の贈呈がありプラザーは

の陰の親切を感謝し

てもまた大分苦しそう。一日も早

人なつっとそうな人である。

イリノイ州のハイスクールで五

整理係を務めておられ情と同じよ

毎日昼食時には、食堂で熱心に いいいいいいいいいいいいい

神父の経歴

せてー。

年間、英語とラテン語と社会科学 | うにソバも器用にお食べになる神

を教えてこられたそうで、ここの一父である。

校の生徒もアメリカのハイスク

ルの生徒も全然ちがわないと言しておられ、あっちこっち見回って一身地は同じく合衆国ミ

今学期一杯は補導部長を補佐し

に御健在とのこと。

おられるのは誰もが知っていることガン州デト

やりと笑われる

問のたびに、に 答えられる。質

ることを祈る。

く全快されて日本に帰ってこられ

けられて生徒とのなじみも大変深 生徒をつれて泳ぎに、旅行に出か

よき理解者として補導部長を

っているわけであるが、その間中

の英語を担当され、夏には必ず

に補導部長に就任され、現在に至 神父は一九五五年来日、五九年 付金をあつめて建てられるもので

あるので、こんどの資金集めはむ

いようである。

1957

の行動、礼儀が立派だから、雰囲

来るとか進学率がよいとか云うの

示してい、本校志願理由を聞いて

中学入学願書受付状況

合計 415名

が圧倒的であったのに対して生徒

生入学願書の受付も注目のうちに

一月十五日に始まった第十一期。ところか。あとは入学試験をまつ。ケートはなかなか興味深いものを

敬遠されたのか?

四年級にいた。それから四七年

九三七年に、私は小学校の

らった。

英雄山本五十六元帥が郷土出身

板を踏んで運んだこと、こうし

たものの中に私の中学時代はこ

た。当の

則に、むしろ真摯に国 ような勢いだった。私はただが

まるで戦争時の空白を取り戻す

やって来たような思いであっ

とその行

助を共にしていた者は

むしゃらに本を読んだ。何かを

められている。中学五年、私達

1958 288人 144人 441人 750人 1959 144人 1960 44人 1961 1962 480人 洛星は進步も後退もなのように言ってはいって来る生徒 校から四五人と人数をこの学校は誤解されているようでしこれでは入学志願者がよけいに と、敬遠され過ぎて一とを忘れているのだろうか。大分 叉別の方から考える ら、結果としてそうなると言うこ うである。これなら、 に窮する。 でいいのかどうか判断 限ってそれ以上受験さ い学校とも思えるし、 ある。この学校を志願するとき、 が勉強がよくできる者ばかりだか できるというのではなくして、そ

合格者 108人 130人 130人 130人 135人 142人

10年間の志願者と

志願者 162人 160人

254人 307人 298人 295人

合格者

ともあるようで、喜ん一格、カトリック等を考えている人 せないというようなこ ミッションスクール としての 性 入学志顕者へのアン |が少ないことは悲しむべきではな | 間の誤解をとく努力をもしなけれ

又授業料その他毎月の納金は現一なければならない。

営規模が小さいからである。しか 在、京都で一、二位を争う額であ 限定されるととになる。 る。これはしかたがないといえば しかたがない。なぜなら学校の経 80-70-60-50-40-30-20-10-

るが、まだ充分に時間はある。 はならないし、誰もが責任を持た 色々と多くの問題が課されてい 世

どうぞよ 3

いつものごとく廊下を、心持ち、文学修士位をおとりになった。

神父はカナダに帰国されることに

四月二十四日補導部長アラール

なった。帰国理由は、修道院の庭

ルの資金集めであるそうだが、現 にたてることになっているチャペ

どうぞ」とこられた。三十分かっ 神父から「京都時間、京都時間」 りだすと、即座に腕時計をにらま れど、インタビューを……」と切 で、几帳面な人と言うのが第一印 と言われて恐縮していた記者なの 補導部室へ顧を出す度にアラール れた。グッドタイミングである。 側のドアから神父もはいってこら きりに補導部へ飛び込むと、向う れて、「四時三十分に補導部室へ のをつかまえて、「新聞部ですけ 背をまるめて歩き回っておられる なんと一年間京都で独学、そしなんと一年間京都で独学、そし も朝起きるのは ーピング。ジェ て二年間東京の Franciscan りである。離し スチャーたっぷ れたというのには二度びっくり。 い。それからし つらいものらし くと即座にスリ Language School で勉強心 趣味は、上聞 始業式の時、壊上から響いて、 ペペンさんお元気で 十三分京都発の「第一こだま」 プラザー・ペペンは胃の調子が きり判らなくて帰国を勧められ

そし

Teenager の」十代という編集子のご注文

した想い出ばかりである。 の十代はほとんど戦争に避われ 洋戦争勃発。こんなふうに、 こうして 想いを たぐってみて ていたといってよい。事実、 変が始まった。四一年には太平 も、何らかのいみで戦争と関係 三七年という年に丁度日華事 小学三・四年生のころ、 今 私 で、今度はちょうちんを下げて 日独伊三国同盟締結ということ

中学入学の秋には

ら幾道もその兵隊から何りをも を覚えている。満州へ渡ってか 血の聞るような思いをしたこと さわらせてもらったり、将校の が一晩泊った。家中をあげての があった。私の家にも将校と兵 し馳走、欲待。鉄砲に恐る恐る

で資をふさごうと思う。 代」の時を少しふりかえること を私流にひねって、私の「十

港から満洲へ渡っていったこと の兵隊が新潟の町に分宿して、 夜の町中をねり歩いた。 ソリーニの名や顔写真が小中学 やフルシチョフを誰れもが知っ てるように、ヒットラーやムッ 今の小中学生の間でケネディ

ちょうちん行列であった。国中 何かといえば、旗行列であり、 戦争が始まった。もつこの頃は 生に知られたのも、その頃から であった。 中学二年生の十二月八日、華

ろ、日本がドイツと急速に親密 が支那から来るようになって、 交換などをしたことがあった。 慰問文だった。この兵隊の便り うものを書いたのは、こうした 送られた時は、ちよ 作となってドイツに となり、両国小中学生が図画の ち、町の目抜き通りを行列して れが日華事変になった。私達小 間もなく音溝橋事件を聞き、 りながら仕上げた絵が、その隹 くことであり、何がしかの小遺 夜の十一時頃まで睡い眼をこす 戦勝を祈願した。 学生は手に 日の丸の 小旗をも っと得意であった。 私がはじめて他人に手紙とい 五年生のこ ことであった。勉強も体力も一 次第に肩身のせまい思いをした る者が多く、視力の足らぬ私は は、特に軍関係の学校を志望す ということで、 中学生の 私達 行は、戦地の将兵に慰問交をか 兵隊さんを思え」で誰も不平も ピツ、ノートなどの入手の困 れ、日々につのる数科書、エン 難、授業時間の細少も「戦地の 切が「お国のため」であるとさ 疑問もない時代であった。 中学生の一番手っとり早い磐

追想して懐しむほどのものが私

なのである。それに何よりも、 が多過ぎてじたばたしている私 い。まだまだ先きゆきの方に気 というのは、どうも得手でな 代にかぎらず、過去を追懐する までが私の十代である。この十

にあったわけでもない。

戦争中はつら

慰問袋を送ることであった。 いをさいて日用品を買い集め、 学校全体で出掛けることは、授 業をすることよりも神聖な護務 勤労奉仕にゲートルをまいて なって行った頃である。空襲と された。戦局は獅く悪化し、 の十一月に初めて東京が大空襲 真夜中の作業(昼は空襲で正常 政者達が次第にヒステリックに H

が有頂天なのであった。緒戦のて、船から岸壁に渡された狭い 々しい緒戦の戦利と共に太平洋 ゴウゴウと鳴る船のクレーンの 出された大豆入りのニギリ飯、 ある豆粕の板を体で調子をとっ 下で、顔中真黒にして石炭を運 上げした時着せられた日通の印 び上げたこと、四十キロほども 入りのハッピや、その中食の時 からの石炭や豆粕などを港で陸 であった。中学四年の頃、大陸 た。高校にやっとの思いで進学 た。中学生からの疲れが一度に 語におぎないをつけるひまもな のはてることのない連続。それ く、終戦は私には突然やって来 中学時代のたたりで不自由な英 した年の八月。終戦であった。 が名古屋での、そして中学校最 高学年での一年のすべてであっ に工場が動かなかった)と空腹 てこれが った。 死体を一 の大空襲

というありさまだった。この年 頃の私達の少年らしい喜びだっ 語は敵性語として一年前から中 屋に移され、仕事は飛行機の生 た。授業は全くなく、ことに英 組立てだった。作り上げた飛行 の勤労奉仕の場所は、遠く名古 学校正科授業から外されている 消えてゆくのをみるのが、その 次々と飛びたって、紺青の空に 産に変った。あの神風特攻機の 機が、隣接の簡単な飛行場から 佳 かった。 まで続くかわからない国全体のぶって本屋の店頭に並んで待た 失なって茫然とした。高校もい ど、空虚は大きく、その方途を つかみた かったのかも 知れな んな時私はよく小川へ釣に出かのだった。 字面をなでるだけであった。そ『世界』はこんな頃創刊された ウキを見つめていると妙に気が るいつかかるかわからない白い けた。静かな川面にキラキラす た。本の文字も、目がただその 長い痴呆 つ授業が再開されるかわからな 私は田舎の家で、いつ のような 休暇を過し フナをすぐ針からぬ 休まった。かかった へそれを投げてやっる。 いて、出きるだけ沖 てでも本が ほしかった。 雑誌 ねばならなかった。そんなにし の晩から黒いマントを頭からか 岩波文庫を一冊買うのに、前

倖せなこと だったと 思ってい 中で生活することが出来たのを 熱心な数授と秀れた友人達との 年を、とも角戦争から放たれて こうして私は十代の終りの一

近代の日本の歴史の暗い十

どつしてくれるのか、と腹が立 置した時胸に湧いた気持、そう 和とは、それをも感じさせずに る。雨の降る日など、名古屋で 和の時期は初めてだったのであ なと思った。物心ついてから平ている。今日若い日々を生きる 山、次々とトラックで運ばれるとも覚えず生きることのできる ては、また釣糸をたれた。そし いうものは一体どうなるのか、 つひとつていねいに安 のあとの 無残な死体 「平和」というものか のではあるまいかと一入羨望の うことがある。その倖せを倖せ あるこのような状態をこそいう 多くの若い人々をみるとき、平 きくらべてたまらなく装しく思 年、それと私の十代は正に重っ 諸君に接するとき、わが身にひ 念を強くするのである。

類に移った。教授は食料の窮乏 の中を默々と懸命に講義した。 高校は再開され、私は文科甲

る。出場するのは、 十分までに入場を完了して、同四 館を借りきっておこなう。一時三 ことになっている。 十五分の 校長の挨拶で 開会され 午後の演奏会は、学校が京都会 オーケスト

長の古屋司教様の司式で洛星会館 事も完了し、又本年四月をもって とで食事をとられてから学校の特 で記念式典ならびに大音楽会が催 念して四月二日に学校と京都会館一てオーケストラとグリー、高一の 本校も創立十週年を向えるのを記 れるが、生徒は各目で自由に行く 別仕立のバスで京都会館に向かわ 来賓、父兄、教職員は食堂と詩堂 典が、来賓、父兄、教職員、生徒 講覧において創立十週年の記念式 の祝べつ式がおこなわれ、続いて 加の父兄と教職員とで、京都教区なお終了時刻は三時四十五分の予 によっておこなわれる。そのあと 当日は朝九時三十分よの自由参イドンの天地創造となっている。 定である。 大合唱による、ワーグナーの歌劇 十一時三十分一十二時三十分 十時一十一時三十分 九時三十分一十時 学園創立十週年記念式典 洛星会館祝べつ式 プログラム

十二時三十分 時四十五分一三時四十五分 パスで京都会館へ

こと。二月九日に退院されて現在

四時四十八分試合終了。 変化なくH一Aが押し気味のまま

をされた。手術の経過は良好との

いよいよ長びいた洛星会館の工一音楽選択者で、演奏曲名は、グリ トラがベートーベンの運命、そし ークラブが日本民謡集、オーケス

タンホイザーより巡礼の合唱、ハ たく式を挙げられた。十三時にお イン。表 ごそかに御告げの鐘が響き、一時は、連目の雪とグラウンド・コン 袋数会にて、 白井良平先生 ▽白井先生 達が列席し、 きれなかったよう。そして同日山 た新郎新婦は、 Bクラスの即席聖歌隊に包まれ 小笠原先生指揮·中 田中桂子さんとめで めでたくゴール (中一品任) は表 月十五日、理科の 終始喜びをかくし HIA優勝

高校サッカー大会

からの式にはお二人の倖を願う人|ディションの悪さで、一月二十七 十日に開始された。 日開始のところ三日遅れて一月三 高校生徒会王催のサッカー大会

除へと旅立って行かれた。夢を乗の間で二月三日(土)、午後三時 ーで振り切った日一人と日二人と 五十分から行なわれた。 決勝戦は日一Bを延長の末2-

▽体育科の中田先生が、胃潰瘍の いて三月一日の午前零時過に手術
ールを決め追加点をあげたが以後 判明した。そして、京大外科にお 察を受けられたところ、胃潰瘍と一のまま前半終了。 三十一日の午後六時ごろから吐血 先制点をあげると二分後H二Aが 中田先生は、一月一ナルティー・ゴールを決めてまず 至急大学病院で診。ヘッディングで一点をかえしー 後半開始後十三分、H一Aがゴ 試合開始後二十分、H一Aがペ

をはじめられ、

于術をされた

に御健在とのこと。出 六人兄弟の御長男で御 一九二六年二月生。

高校一年生の

トピックス

うつ 早く回復されることを祈っていよ 伯母さんの家で静養中とのこと、

る事実である。これから考えれ よって非常に異なったものとな ち我々の住む世界は我々の心に

よって結論を出したい、すなわ では次の事実に着目することに いろいろな言い方があるがここ ているからである。以上の様に

どこかというとそれが僕のいる

大きな声でである。彼の住所は くないた。しかも体の側に似ず ツがいた。この犬は神経質によ

部屋のすぐ近くなのである、と

ば我々は実は、心、意識の中に住

全て吠えたてるときている。し

れが人が前を通れば知人以外は

星

ケルブ館での生活

をしている六人を代表して、ケルブ館での寮生活についての感想を、高IB の岸本君に語ってもらうことにしました。 ブ館の寮では、中学生四人、 一時的に洛星中高等学校の生徒の便宜の為に寄宿舎になりました。現在ケル このたび、将来のヴィアトール会志願者の為に設立されましたケルブ館が 高校生二人が生活しています。そこで、寮生活

・共に満点

紙一通、承知の旨を伝えて、手続、館の中で行なわれる。学校が終っ は終了、そして新学期早々、 察一て五時までは、運動とはいえない一と木曜日に風呂に入る。もち論、一にブザーで起こされる時である。一す。今高校生は僕と母治君の二人一から通わず、歩 環境も良くないだろう。結局、手 | と察いから、との理由で、ケルブ | て、まことに私は言う、汝、ガリ がする。五千五百円、いろいろとは、パン、ジャム、パター、それしあるから、ぬかみそが腐らないよ からのことである。

| 改々ペンを下 | 一神父、ブーレン修道士、桑田修道 僕が寮に入ってから一週間たって一介しよう。家族は今の所、ラトレ が、小さくとも七千円はするし、 れど、商売の下宿屋では一部屋はいつもの通りである。蛇足なが、勢強、 分の下宿生活と比較した。規則は一で洗う。そして掃除をやった後登一と夕の祈七時二十五分からと六時 条件等を見て、又、これまでの自に牛乳、食事の後の皿は、みんなっにしておいて欲しい。お祈は朝 らないか。」と勧められたのは二 う。担任の先生から「君、寮に入 った いきさつでも 読んでもらお の革島、高一の丹治、以上五人の わからない。まあ少し僕が寮に入一中一の革島、蘇、中二の蘇、中三一共に満点、ヨダレをたらすな! すが何を書いたものか、自分でも | 士、それに我々、名を上げると、 **軽越しいようだ。が、規則が守**| 校する。火曜日と金曜日は、朝六 規則を見ると何だか固苦しい感じ から砌の祈、 その後食事。 賜物 | その時は全校生に聞かせる破りで と言って休みに入った。寮内での 学期の終り、「考えておきます。」 言。」 こんな依頼をうけたのは | う。次に現在の寮生活の内容を紹 | で勉強、 机といす はもちろん本 「ケルブ館での寮生活の感想を一へ。えっ、もついい、じゃやめよ ればならない。それから七時十分一成するプランを作成中(?)で、 七時十分前起床、御ミサのある火 諸君、それに僕。プログラムは朝 時半より御ミサがあり、それ以後

ら御ミサは修道院まで違い? の る。 何ノ 勉強時間が 少ないっ 曜日と金曜日は六時に起床しなける。将来ケルブオーケストラを構 々楽器を持って 名演奏を かなで 但し野球はだめ。五時から六時ま からのロザリオの祈りである。あ 神父様達も一緒である。食後は休 習するのである。夕食は味、量、 と七時半から十一時十五分前まで けい。各々勝手な事をするが、時 で、例のストーブで暖をとって影 棚、電気スタンド、等皆備え付け ない。又、その他何でも出来る。かなか面白いが、僕らは到底及ば **勉になるなかれ**イ この間火曜日 が、食卓に卓球台を置いて卓球を 中に十五分の 休けいがあ

は人体の大部分は水で構成され

いう言い方もあろう。というの

ある家に移ったときのことであ

転々としてかわった。ところが まった。下宿もそういうわけで

る。ここも決して静かとはいえ

いのだがこの家に白いスピッ

し、社会の中に住んでいるとも

球の上に住んでいるともいえる

騒ぐ声、これらに全く困ってし

数学科

三島宏司

いえる。水の中に住んでいると

ぐ気がつくことは我々は家の中 かを考えてみることにする。

に住むということである。又地

我々で風呂は沸かすのである。 ある日、早くミサがあるから六時 っているが、つらいのは御ミサの 一時に就寝。このように毎日を送る。但し土曜日は自宅に帰るが、 んでいるといえるのである。と 十一その他は 大変結構な ホームであってすから二対四 部屋は 余っています。 歓迎しま 君、無理に遠方 これは仕方がない。どうですか、 かも下宿の前はいつも人がよく

ます。高等生諸 で圧倒されてい

といった人々よの若かったのでも 絵を創造していたかと、惜まれま一カンバス油絵 65×48 ピカソ、マチス、ルオ、ブラック し彼が生きていたとしたらどんな クリーブランド美術館所藏

コマーシャルで

でも遠慮なく、 へ、中学生の方 いて一分の我寮

はないが、楽し

い寮生活は経験

変役立つと思う。 を積む上で、大 **愛情を抱き、それを専門とした唯一のため三十六歳の若さでなくなり** 近代派の画家の初期の世代のな一つくろうとしたのです。 彼はみじめな生活と飲酒と麻薬

かではモディリアーニは肖像画に

ところでモディリアーニの肖像

? という疑問が生じるが、我々 えてみよう。さてこれを考える とでは我々はどこに住んでいる の紙面で論ずるのは止めて、こ は何か?は、ややこしいのでこ 我々は一体何でどこにおるのだ 前に先ずこれらのことを考える 対に地獄とは一体何でそれはど こにあるのか? 一つこれを考 体何か? それと反 にあるのだろうか? そもそも天国とは一 天国とは一体どこ ラジオ、シーンと闘まりかえっ た。勉強しようと思えば酔から と如何なる関係にあるかる探っ 音に毎日悩まされることになっ ものの現象すなわちいろいろな かすなわちそれは我々の所在地 れで我々の所在地をはっきりさ 経質になったが、神経質につき る。僕は或る時期より非常に神 資料にして考えてみることにす 験を述べさしていただきこれを せたから次に天国はどこにある てみよう。このため先ず僕の体 いる夜、思索にふけっている 通る所なのである。ある日彼が

と前の家からへたな笛の音、少 し休もうと思えば下宿の子供の かとか、大のつなぎ場所を人通 小さな声でやれないものだろう うか、なくんだったらもう少し 続けた。そのときちょうど非常 んだ、なぞ犬というのはあんな たこの間さまざまな事が頭に浮 たのだがこれにはほとほと参っ に大きな問題について考えてい ひときわ大きくしかも長く吠え になかなくてはならないのだろ

りの多い此所をやめて庭の方へ などという心が僕をして苦しめ

もって分析、批判、非難したり つまり犬や家の人を怒りの心で 自分自身の心が自分自身を悩ま に音に悩まされているのは実は 気がついたのであるが、こんな 心であった。それと同時にすぐ んな音位でへこたれる程弱いの か?という自分に対する反省 しているのではなかろうか?

かわることを考えるのだが、こ から何までを頭にめぐらすとい うことをしたものである、普通 析、批判、非難をしたり、はて はその挙句、こといらで下宿を は家の人の日頃の行ないから何 静かに過せるではないかなどと 静かに過せるし、第一大自身心 持をもたずにすむし、又我々も こともなく通る人も不愉快な気 つないだら大はあんなに吠える 怒りの心でもって 家の 人を分 吠え続けている、ところが不思 気を振い起してただちに実行に 実験をしてやろうと思い立ち勇 ているのではなかろうか? と である。まだこの間犬は盛んに でいた問題に意識を集中したの 分析、批判、非難するなどをや とりかかった、すなわち今まで めて、犬がなく前からとりくん て、つまり怒りの心でもって いうととにである。そこで心の していたことを 全部取り 止め

んな考えが湧き起った。僕はこ

のときはそうはしなかった。と

議や、今まであれ程苦しんでい

ことは経験し

たことのある人は

結ばない、思想のない人間になる

ことを 覚悟しなければ なりませ

「人工衛星は軌道に乗った」

ん。が、然しそれのみでは、実の

と、人類は喜んでいます。それな

由とはいえないのでもっとこの ときの喜び!その瞬間、音に についても自分自身をきたえて 心の機構について勉強をし、音 いきたいと思っている。以上の い様になった。しかし完全に自 が分ったのである。それ以来と 自分を求もなく発見した。その た音から完全に解放されている いうものは音に余り束縛されな しばられずに自由に動ける秘訣 失望、落胆、 嫉妬、復讐、

自身の本質を知らねばならぬので

るべきではないでしょうか。人間

らば人間も人間の本当の軌道に乗

はないでしょうか。人間が人間の

本性の軌道に乗るならば、其の果

のです。農夫はその耕す大自然を

実は百倍の実を結ぶことが出来る

る。このことは音に関すること る、心のしくみを知る前までは 今まで住んでいた世界から言る おそわれることになる。それは るため音にはあまり束縛されな のだが、心の働きを知ってから のである。苦はここから発生す でちがった人の住むべきでない 生するとたちまち我々は苦痛に 相手が相手がと他を怒っていた は自分自身の心の態度にあった である。次の心が我々の心に発 ばかりでなく一般にいえること は怒りを止める方に努力してい みの原因は犬、家人でなくて実 い様になった という 次第であ 別からでも推察される様に苦し 何でそれはどこにあるかが分る 心を深く正しくみつめよといい 幸福を得たい人には自分自身の 他には存在しない。したがって さしていただくがとにかく。天 ある。理由は紙面の都合上省略 ・譬・美を心に思えばよいので ればこれらの心になれるか?そ 雀躍するのである。ではどうす 愛・誠であり感謝と欲喜に心が えって天国とは実は前の例から のである。では最初の疑問にか 目などが実は悪魔の正体である 心にあるものであり前二十六項 をおそう苦でありそれは我々の であろう。すなわち地獄は我々 暴、自築などである。さて今ま 忌、誹謗、猜疑、邪推、貪慾、 な心かというと、憤怒、恐怖、 よく分るであろう。それはどん 国は我々の心にあり、であって れにはいつ如何なる場合でも真 推察がつく様と で述べてきたことから地獄とは 俗、煩悶、迷妄、憎悪、怨恨、 不平、不満、自 排他、焦慮、嫌 心配、憂愁、傸 に調和のある心・

いでしょう。 に、高校生徒会評議員会解散が決 十二日、会長の権限のもとに遂 高校評議員会解散

す。

自分で自から生命を生もうと

をひらいて みつめよと いうので 王を忘れてはおらぬか。それを目 想で彼等が生きているか、生命の の果実 によって 汝彼等を知るべ 体得することであります。 来ること、良き実を結ぶこと、 神を知る事、神の教える道徳律に

「彼等

し。」地上に於て如何に正しい思

ち神は唯一であり、神の道即ち人 りたいものです。そのことは、即 の下に生きることが出来る様にな 確固たる客観的な一つ一つの真理 活をする為に無関心主義でなく、 題の重要性と、正しい真の精神生 真理を理解し、人間の精神生活問 者にも、一般社会人にも大自然の る為に準備します。そのように学 理解し、又大自然から得る実を取

間のよるべき道徳律は唯一であり

しても、其の実は無花果にすぎな

(村田神父)

世界におちこむのである。この

弁償しなければなりません。 費は含まれていません─下宿)
著一言り帰宅。日 (暖房、電気、朝夕の食事—昼食 後、日曜日は特別な理由のないか)、管理については、下宿料は に連絡し帰宅。 毎週土曜日の放課 賞しなければなりません。 ン。帰宅療養必要なる場合、父兄もしも破損した場合は、自分で「に納入。薬代、治療費は個人負夕 曜午後十時までに帰 評議員会が、後期生徒会発足後、何

五五〇〇円。毎月五日までに寮長 汝彼等を知る 彼等の果実に よって

動と行為に就いて言われているこ とは事実ですが、その行動行為は せん。聖書の此の言葉は、一応行 という事実を見のがす事は出来まし、私達はまことなる者と彼等の 人のよく変われた思想に根をおく 致するとは思われません。が、然ん。然し諸君遠が知る可き事は、 も、良き準備が必要なのでありま
|さましい論争、スキャンダルから
|おまけに冬のこととて、
薄暗かっ 計画の為に、冬中考えをめぐらし一確かにあります。それが思惑なく一ってから一ケ月程しかなく、これ を一生懸命に行ないます。又其のります。現在こういわれる理因は「卒業式は二月十五日、三学期始ま し他方人間のすべての行為が其の す。勿論準備と結果がかならず一 為に、学問に於ても体力の上から一可解な点から、又は宗教家達のあ一 毎日良き収獲の為に、良き結果の一あるでしようし、又多い宗教の不一▼洛星会館内部はきれいですが、 間の成長にもいえましょう。毎日 に、農夫達はその春に田畑の手入 、農夫達はその春に田畑の手入」い。」という言葉を聞くことがあ 秋にもっと良い収穫を得る為一何を信じようと大した問題ではな いるのでしょう。同じことが人|語られていることも有るでしよう|に間にあわさなければならないの 来ることも認めなければなりませ、たので写真うつりが悪く、見にく す。又事物に たとえ
このような
宗教家達の争
下さい。 とするならば、すべての学問は勿一発行が困難なようです。中三生は 区別を 知ることが 大切でありま | 努力しておりますが中三生が一人 し、又個人的 い、スキャ 客観的真理性がない 信念からくることもで、大変な苦労でした。

▼今号は第五期生卒業記念号及び らず全生徒の一層の自覚を望む!

残念なことである。評議員のみな ら活動をしていないということは 定した。高校生徒会最高機関たる

|言葉を聞くことがあ||洛星会館落成記念号を兼ねました なにしろ中学校舎の裏側であり、

ンダル があるとして ▼今学期はこの号だけですが、来 も局の中にいないので来年は新聞 号は四月早々に出したいと思って いかもしれません。しんぼうして

の下(現山岳部室)に移転する予 ▼今度新聞局は、高校一階東階段

説明または声を出して勉強しなける。寮生は、礼儀作法を重んじ、

対に静粛にします。もしも生徒が | られた掃除をしなければなりませ

ればならない場合は、許可をうけ
|特に言葉について、注意しなけれ

多くの人々の中から、「人間は誠

う。容易に耳

論、日常生活に於ても確実な行為一どうぞ入局して下さい。

いととになるでしょ

に入る言葉は、多く

が良いかも知れませ

れてはならないのです。特に近頃 その根源たる思想にあることを忘

介

くないと思います。どの絵にも引 それに優しく、甘い悲しみに満ち 造作、黄金のさびたような色彩、 う感じを持っておられる方も少な 画はすべて同じように見えるとい 顔、つり合いのとれていない顔の きのばされた首、とがった卵形の

ことではなく一つの対象それ自身 観察してみると、ひとつひとつの たムード。しかしもっと注意深く 現的、装飾的性格を強調するため ます。モディリアーニは絵画の表 格を描き出していることがわかり 肖像画がはっきりとした個性と入 法を学び実体そのものを写し取る に誇張し、変形し、単純化する方

や行動について、

心から相談にの

長に紹介しなければなりません。

とができまん。訪問客は、必ず餐

及び態度について、万全の処置を り指導します。従って寮生の学業

どるように心がけます。

二、静粛勉強室に於ては、絶

のません。各自は、週間の間に与え

は常に清潔整頓を心得なければな

四、清潔、整頓すべての寮生

るのが、この寮の根本方針であり

内の生活を一つの家庭のようにす」にしか許されません。応接間は、

その為に、特別に設けられます。

一、察長祭 則

ます。寮長は、寮生の生活や考え | 寮長の許可なく、二階にあがると